

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873400273
法人名	有限会社エル・シー・エヌ
事業所名	グループホーム久万いこいの郷
所在地	愛媛県久万高原町入野1726番地5
自己評価作成日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 9月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中で生活し、季節を感じていただき、楽しくのんびりと生活できるように心がけています。地域柄家族との距離が離れているので、病院受診、検診は施設にて100%対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地域の中で、季節を感じながらゆったりとした生活のできる事業所である。内部は、床暖房や二重窓、エアコン等完備し、木の温もりを感じることができる。開設から7年が経過しており、利用者は職員と共に楽しくのんびりと生活している。病院受診はほとんど事業所に対応しており、家族への経過報告等は密にしている。地域とのつながりも深くなってきており、少しずつ役割を持ってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム久万いこいの郷

(ユニット名) グリ

記入者(管理者)

氏名 丸山 昭仁

評価完了日 平成 22 年 8 月 19 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の作成をして、日々の関わりについて実践に心がけている。	
			(外部評価) 「笑顔で、ゆったりと、楽しく」を理念として掲げ、利用者が主役であることを第一に考えながら実践につなげている。会議や勉強会等で職員は共有し、事業所内にも掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の住民より畑を借りて農作業を行い、また季節の行事用に七夕の笹飾り用の竹を分けてもらうなどの交流を図っている。施設で飼っている犬を道路に面した中庭に開放しているので、行き交う方々との会話や交流も行えている。	
			(外部評価) 運営推進委員会や防災訓練の協同で、地域とのつきあいが深まっている。地域の行事や清掃活動の参加等でも交流している。また、犬が好きな近所の方と事業所で飼っている犬のことで会話が盛り上がり、畑で採れた野菜を分けてくれたり、日常のお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において地域の方々に対して介護医療に関する情報提供を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 困難事例や必要事項について話し合っている。また、地域の方々と防災関係について話を持っている。	
			(外部評価) ホームの状況や活動について報告し、困難な事例や必要な事項について話し合っている。特に防災訓練については具体的に意見をもらい改善につなげている。利用者や家族、行政職員、地域の方等が参加している。	地域の方や家族、職員も出席できる時期や時間帯等検討し、充実した会になるようさらなる取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 電話や直接訪問し行政の担当者との連絡をとっている。また、介護相談員の受け入れを月2回しており、文書にて指摘を頂き、改善に向けて取り組みをしている。	
			(外部評価) 行政の担当者とは電話で連絡したり、直接出向いて相談をする等、よい関係が構築されている。行政の担当者の交代も少なく、顔見知りとなっており指導や相談がしやすい。月2回の介護相談員の受け入れもしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中については、玄関を開放している。スタッフ全体ミーティングにおいて身体拘束の理解に努めている。	
			(外部評価) ミーティングで身体拘束について理解に努めている。薬物の使用や転倒防止対策等勉強会をもち、関係者と意見交換をしている。言動等も職員同志で注意し合っている。日中の玄関等は開放しており、職員は利用者の行動を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全体ミーティングにおいても話し合いを持ち、虐待の防止に努めている。高齢者虐待防止法の研修はまだ実施できていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者や家族状況をみながら、行政との話し合いを持ち、各制度への利用へ繋げるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 主に入居時に契約をし、分かりやすい説明に心がけている。内容の難しい部分には補足説明を加えながら行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回の状況報告書等発送している。疑問点等は電話や訪問時に受け付けている。また、介護相談員の派遣事業において外部の方とも話し合いを持っている。 (外部評価) 月1回の状況報告書等を発送し、家族の意向を聞くようにしている。面会や訪問が少ない家族とは電話等で情報交換している。利用開始時には苦情や不満の受付窓口を説明している。改善の必要な事項は職員で共有し、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全体ミーティング、各ユニットのミーティングにおいて意見の交換、検討を行っている。</p> <p>(外部評価) 定期的開催される会議には代表者や管理者も出席し、職員から出された意見や提案を大切に扱っている。内容によってはすぐに実現させたり、意見交換や検討を重ねている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務体系の柔軟化を鑑み、職員より希望休を予め書き込んだものをもって勤務表の作成を行っている。研修費用の事業所負担分も体制を整え、研修の奨励に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全体ミーティングにおいてマニュアルをもとにした研修、また介護実習センターにおいて外部研修を実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域ケア会議においての交流は持っているが、同業者間での交流について話し合いの段階で、まだ交流を行っていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査、入居時などで出来る限り細部の聞き取りを行い日々の対応に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時や見学の受け入れ時、面談等を通じて話し合いを持つ中で関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 不安要因や必要な事柄については、入居前からご家族、ご本人及び関係機関との連絡を取りながら行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人が出来ることを見極め、日々の生活に張り合い、生き甲斐がもてるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の機会が多くもてるようにご家族への促しや、日々の生活や往診による身体状況などを文書にまとめ発送したり、適宜電話等で連絡をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の店（生協、野菜市、被服店、喫茶店など）へドライブをかねて行くようにしている。 (外部評価) 利用開始時等に収集した情報はセンター方式でまとめ、一緒に生活しながら追加している。馴染みの医療機関や地元のお店に可能な限り出かけ、今までの馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の心身の状態、関係性を把握し席順や行事への参加などの配慮をしている。またスタッフより仲をとりもつような話題の提供や支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期の入院により退居された場合も、再入居が出来るような定期的な連絡や関係機関との話し合いをもって	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 3ヶ月1回のペースでアセスメントを行い本人の希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者の今までの生活歴等を家族に確認したり、事業所での生活の中で得た思いを職員間で共有している。また、居室でゆっくり話を聞く時間を作り、利用者の要望をくみ取れるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式による聞き取りにより生活し易い環境作りに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や引継ぎ、連絡ノートなどを使い把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 主治医を中心に相談し計画に反映している。また、介護相談員の方とも話し合いをもちながら計画に活かしている。	
			(外部評価) 毎月のケアカンファレンスで介護計画の評価と見直しをしている。本人や家族の意見は個々の担当者が主となって聞き取っている。必要に応じて関係者との情報交換を行い計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録により日々の状態を把握し、必要に応じて受診などの対応をしている。またケアカンファレンスにも反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) リハビリが必要な方への送迎、訪問マッサージなどをご家族と相談しながら行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の図書館を利用したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人及びご家族の希望を聴きながら、主治医の選定 を行い、必要があれば、専門医への受診をするよう にしている。	
			(外部評価) 本人や家族の望むかかりつけ医を受診している。送迎 等は事業所の職員が対応し、家族に随時連絡、報告し ている。専門医の受診が必要時は家族と相談して支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携体制により看護師を配置し健康チェック及び 電話などで連絡を取りながら、適切な医療を受けれる ようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医以外の病院受診や入退院時には、紹介状などの 医療情報の提供や、医師との面談をし情報交換に努め ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族への話し合いは行っている。関係機関との連携 については、体制を整えている。	
			(外部評価) 看取りのマニュアルを作成し、利用開始時の早い段階 から家族と方針の共有を行っている。看護師資格を 持った職員もお対応ができています。	事業所ができること、できないこと等、家族とより具 体的な話し合いを行うことを希望したい。また、職員 の看取りに関する教育を積み重ね、よりよいサービ スの提供や利用者本位の支援を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回のAED講習を行うようにしている。全体ミーティングにおいて必要な緊急対応の話し合いをもつようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災の避難訓練は年2回行っている。運営推進会議において地域の方との協力体制を図っている。 (外部評価) 年2回消防署の立会いで、夜間想定等の避難訓練をしている。運営推進会議を通じて地域の方との協力体制や連携方法の確認をしている。ホームの見取り図や利用者の情報をプライバシーに配慮しながら、地域の責任者に開示している。また、地震等に備え地域の救急工具格納箱を預かっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全室個室対応にて対応している。尊厳を傷つけないような言動に気をつけている。 (外部評価) 職員は一人ひとりの人格を尊重する支援に心がけ、言動に注意している。親しみが慣れにならないようお互いに気をつけ合っている。また、利用者が生活の中で一人になれる時間を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の心身の状態により個人差はあるが、できる限り希望に応えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調面や精神状態を配慮しご本人のペースに合わせるような対応に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧品や衣類などご本人と一緒に買物へ行ったりしながら、希望に沿ったおしゃれが楽しめるような対応をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備、味付け、片付けなど入居者の方と一緒にいたり、職員も一緒に食事をしながら会食している。	
			(外部評価) 能力に応じて調理や片付けを無理のないよう一緒にしている。地元の食材や地域の方にいただいた野菜等で、利用者の希望を取り入れながら調理している。栄養のバランスについては栄養士に相談している。また、おやつ等も手作りしたり、回転寿司やレストラン等で外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 飲み物の好みなど個々で把握し必要なときには変更して対応している。1日の水分量は記録し十分な量が確保できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアについては個々で行っている。出来ない方については介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべくトイレに行つての排泄を心がけ、ポータブルトイレなどは夜間帯に限つて行うようにしている。	
			(外部評価) 排泄の自立に向けて、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレへの誘導をしている。利用者の状況に応じてトレーニングパンツやポータブルトイレを使用している。自然な排便ができるよう食事内容や水分補給に気を付け、必要に応じて服薬している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や飲み物（牛乳、冷水など）なるべく薬に頼らないようにしている。また、薬を使用する場合もご本人に負担がかからないように医師ともよく相談しながら行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間浴によりなるべく今までの生活に即した形態をとっている。	
			(外部評価) 今までの生活スタイルを継続する意味で、寝る前の入浴を毎日3人程度行ったり、回数や時間帯は希望に応じて実施している。寒い地域なので床暖房や空調には十分配慮し、ゆったりと楽しめる入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースや室温計を各居室に設置し、安眠できるような支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の特徴については、口頭、文書により周知し、食べ合わせの悪い食品を摂らないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味や嗜好品、散歩、季節や外出行事などを織り交ぜながら、日々の生活にストレスを感じないような工夫をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買物については希望に応じて行っている。また、喫茶店、被服店、野菜市、夏祭りなどに行っている。玄関はいつでも出れるように開放している。外出時はスタッフがサポートできるようにしている。	
			(外部評価) 近くの中学校まで事業所で飼っている犬と散歩している。馴染みの商店へ買い物に行ったり病院に受診する等、日常的に出掛けている。天気の良い日等にドライブや外食等にも出かけ、夏祭りや花火大会、夕涼み等に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこずかいを預かっており必要な物品の購入に充てている。買物にはご本人の管理能力に応じて支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 居室にて電話が出来る環境にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾り、彩をもてるようにしている。トイレは絵や文字で混乱しないような表示をしている。2重ガラスのサッシや床暖房なども施しており、寒冷対策も行っている。	
			(外部評価) 床暖房や窓の二重ガラスを施して冬季の対策をしている。大きな窓から周囲の風景も一望できる。トイレや浴室はゆったりとして必要な場所に手すりを設置している。台所はオープン形式で利用者との協同作業もしやすい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ウッドデッキに長いすを置いて多人数でも座れるようにしている。必要に応じて、1人用の手すり付きイスを用意したりしている。その他ソファ、畳コーナーも設けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時になじみの品や装飾品、電化製品を持ってきていただき、ゆったりと過ごせるような環境にしている。また壁に穴を開けて設置しても良いことも入居者、ご家族へ伝えている。	
			(外部評価) ベッドやダンス、エアコンは備え付けてあるが、利用者は位牌や衣装箱、衣装かけ、絵や写真などの使い慣れた物やなじみの品を持参している。家族の協力を得ながら利用者が居心地がよいように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体状況にあわせて移動センサーを配置したり、手押し車、車椅子、手引きでの歩行など使いながら安全に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873400273
法人名	有限会社エル・シー・エヌ
事業所名	グループホーム久万いこいの郷
所在地	愛媛県久万高原町入野1726番地5
自己評価作成日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 9月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中で生活し、季節を感じていただき、楽しくのんびりと生活できるように心がけています。地域柄家族との距離が離れているので、病院受診、検診は施設にて100%対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地域の中で、季節を感じながらゆったりとした生活のできる事業所である。内部は、床暖房や二重窓、エアコン等完備し、木の温もりを感じることができる。開設から7年が経過しており、利用者は職員と共に楽しくのんびりと生活している。病院受診はほとんど事業所に対応しており、家族への経過報告等は密にしている。地域とのつながりも深くなってきており、少しずつ役割を持ってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム久万いこいの郷
(ユニット名)	グラ
記入者(管理者)	
氏名	丸山昭仁・西岡祥太(ユニットリーダー)
評価完了日	平成 22 年 8 月 19 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) いこいの文字にならい、いつも笑顔で、行動はゆったりと、一緒に楽しく、をモットーに実践に繋げています。</p> <p>(外部評価) 「笑顔で、ゆったりと、楽しく」を理念として掲げ、利用者が主役であることを第一に考えながら実践につなげている。会議や勉強会等で職員は共有し、事業所内にも掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地元のアラマ地区の寄り合い、清掃活動、交流会や地方祭などに参加し交流をしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進委員会や防災訓練の協同で、地域とのつきあいが深まっている。地域の行事や清掃活動の参加等でも交流している。また、犬が好きな近所の方と事業所で飼っている犬のことで会話が盛り上がり、畑で採れた野菜を分けてくれたり、日常のお付き合いができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議には地域の民生委員や自治会長の参加をお願いし、協力関係を築いています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 施設の状況報告や行事活動を報告し活動への参加などの協力や相談をしている。	
			(外部評価) ホームの状況や活動について報告し、困難な事例や必要な事項について話し合っている。特に防災訓練については具体的に意見をもらい改善につなげている。利用者や家族、行政職員、地域の方等が参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 携帯電話にてすぐに連絡がとれるように密な連携がとれています。	
			(外部評価) 行政の担当者とは電話で連絡したり、直接出向いて相談をする等、よい関係が構築されている。行政の担当者の交代も少なく、顔見知りとなっており指導や相談がしやすい。月2回の介護相談員の受け入れもしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 薬物拘束によりかえって転倒事故がおきないように、主治医とも相談できています。また話し合いがもてるように、必要なときは電話や病院へ訪問して連携をとっています。	
			(外部評価) ミーティングで身体拘束について理解に努めている。薬物の使用や転倒防止対策等勉強会をもち、関係者と意見交換をしている。言動等も職員同志で注意し合っている。日中の玄関等は開放しており、職員は利用者の行動を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については日々の申し送りやミーティングにおいても話し合いをもち、実践に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を利用中の方が2名おります。今回久万高原町が先進地域ということで、啓発活動の一環として、久万高原町、久万高原町社協、特定非営利活動法人PASネットの方々と協力しビデオ撮影などを行いました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容の項目1つ1つに対して説明を行い、時間をかけて納得がいくような形をとっています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情や不満などは契約時に受付窓口を説明します。苦情等があった場合は文書に残し、会議にて話し合うようにしスタッフ全体の問題として共有するようにします。 (外部評価) 月1回の状況報告書等を発送し、家族の意向を聞くようにしている。面会や訪問が少ない家族とは電話等で情報交換している。利用開始時には苦情や不満の受付窓口を説明している。改善の必要な事項は職員で共有し、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の全体ミーティングにおいて話し合い、各所ミーティングには管理者も参加し意見交換しています。 (外部評価) 定期的に行われる会議には代表者や管理者も出席し、職員から出された意見や提案を大切に扱っている。内容によってはすぐに実現させたり、意見交換や検討を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員のストレス発散のためにも年2回程度の親睦会などを設けております。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の紹介や施設内研修の機会を設けてスキルアップに努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との話し合いを進めている段階です。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査にはご本人、ご家族、医療、ケアマネジャー等の関係者に話を伺いながら関係作りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時には内容説明の他にも、要望等に時間をかけています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前にある程度のサービス内容を考えていますが、実際に入居されて思いの変化に応じて対応するようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者と一緒に食事、園芸、喫茶などをし同じ生活を過ごしている環境を提供しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出、外泊などの促しや物品購入などの援助をお願いします。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの店へドライブに出かけたり、墓参りのための寺社への送迎などを行っています。 (外部評価) 利用開始時等に収集した情報はセンター方式でまとめ、一緒に生活しながら追加している。馴染みの医療機関や地元のお店に可能な限り出かけ、今までの馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が話題の提供をし、場作りをしながら、コミュニケーションがとり易いようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後にも連絡を入れたり、介護に関する相談に応じたりしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 居室や2人になれるところにおいて、相談や希望に乗っています。 (外部評価) 利用者の今までの生活歴等を家族に確認したり、事業所での生活の中で得た思いを職員間で共有している。また、居室でゆっくり話を聞く時間を作り、利用者の要望をくみ取れるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式により生活歴や趣味、嗜好、宗教、性格などの把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアカンファレンスにおいて情報を共有しています。入退院後の状況については、サマリーなどの情報提供書を周知できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスにおいて、会議録、前回プランの見直し、1日の生活状況、プランの実施記録などにより現状に即したプランの作成に努めています。	
			(外部評価) 毎月のケアカンファレンスで介護計画の評価と見直しをしている。本人や家族の意見は個々の担当者が主となって聞き取っている。必要に応じて関係者との情報交換を行い計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 定期記録以外にも連絡帳により必要な情報の共有を図り実践に繋げています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 申し送り時や必要に応じて話し合いをもち、実践し、その情報については連絡帳にて把握するようにしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 現在、地域支援活動の一環で障害者向けの就労法人に週1回参加している方が1名います。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 今までかかり付け医で受診していた医療機関を優先的 に受けれるように配慮しています。 (外部評価) 本人や家族の望むかかりつけ医を受診している。送迎 等は事業所の職員が対応し、家族に随時連絡、報告し ている。専門医の受診が必要時は家族と相談して支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回程度、看護師による健康チェックを行っていま す。スタッフの相談も時間外にも応じています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の地域連携機関とも連絡を取りながらスムーズ入 退院が出来るように努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重篤度に応じてご家族や主治医と相談するようにして います。 (外部評価) 看取りのマニュアルを作成し、利用開始時の早い段階 から家族と方針の共有を行っている。看護師資格を 持った職員もお対応ができています。	事業所ができること、できないこと等、家族とより具 体的な話し合いを行うことを希望したい。また、職員 の看取りに関する教育を積み重ね、よりよいサービス の提供や利用者本位の支援を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応マニュアルを作成しており、定期会議において研修等を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署立会いのもとに避難訓練を実施しています。夜間想定や地域の方との連携方法の確認をしています。 (外部評価) 年2回消防署の立会いで、夜間想定等の避難訓練をしている。運営推進会議を通じて地域の方との協力体制や連携方法の確認をしている。ホームの見取り図や利用者の情報をプライバシーに配慮しながら、地域の責任者に開示している。また、地震等に備え地域の救急工具格納箱を預かっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日常の中でプライバシーを確保できるようにしています。特に排泄、入浴、個人的な相談などは十分注意するように努めています。 (外部評価) 職員は一人ひとりの人格を尊重する支援に心がけ、言動に注意している。親しみが慣れにならないようお互いに気をつけ合っている。また、利用者が生活の中で一人になれる時間を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 基本的には入居者の方との相談の上に行うようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の状況に合わせて行うようにしていますが、難しい場合は話し合いを持って行うようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合わせて入居者の方と一緒に洋服を買いにいけます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 手伝える範囲で入居者の方と一緒にいき、会話を交えながら楽しい雰囲気で行うようにしています。	
			(外部評価) 能力に応じて調理や片付けを無理のないよう一緒にしている。地元の食材や地域の方からいただいた野菜等で、利用者の希望を取り入れながら調理している。栄養のバランスについては栄養士に相談している。また、おやつ等も手作りしたり、回転寿司やレストラン等で外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は記録に残し必要に応じて摂取していただくようにしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて対応しています。必要に応じて入れ歯の洗浄介助等を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的な排泄の声かけや、個々に応じてトイレ介助を行っています。	
			(外部評価) 排泄の自立に向けて、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレへの誘導をしている。利用者の状況に応じてトレーニングパンツやポータブルトイレを使用している。自然な排便ができるよう食事内容や水分補給に気を付け、必要に応じて服薬している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量や冷水、牛乳などの対応をし、個々の状態に合わせて便秘薬の投与を行います。適宜見直しを行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一般的な生活スタイルに合わせていくように夜間浴の実施をしています。	
			(外部評価) 今までの生活スタイルを継続する意味で、寝る前の入浴を毎日3人程度行ったり、回数や時間帯は希望に応じて実施している。寒い地域なので床暖房や空調には十分配慮し、ゆったりと楽しめる入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間は21時になっていますが、個人に合わせて柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤投薬にならないよう、投薬時は2人体制で確認をしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態、能力に応じて手伝いなどをさせていただきます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的な外出支援、外食、買物、喫茶などの援助をしています。	
			(外部評価) 近くの中学校まで事業所で飼っている犬と散歩している。馴染みの商店へ買い物に行ったり病院に受診する等、日常的に出掛けている。天気の良い日等にドライブや外食等にも出かけ、夏祭りや花火大会、夕涼み等に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に応じて小額程度の金銭を管理していただいております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、知人、旧友などに対して居室にて電話をして頂きます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた花々を生けたり、装飾品を飾ったりしながらゆったりとした空間作りをしています。	
			(外部評価) 床暖房や窓の二重ガラスを施して冬季の対策をしている。大きな窓から周囲の風景も一望できる。トイレや浴室はゆったりとして必要な場所に手すりを設置している。台所はオープン形式で利用者との協同作業もしやすい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、和室は設置しておりゆとりの空間作り、懐かしい雰囲気を提供しています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室については、ご自宅にいるような感じを持って頂きたいと思っております。なじみの品、仏壇なども含めて自由にさせていただきます。	
			(外部評価) ベッドやダンス、エアコンは備え付けてあるが、利用者は位牌や衣装箱、衣装かけ、絵や写真などの使い慣れた物やなじみの品を持参している。家族の協力を得ながら利用者が居心地がよいように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の生活動線上に手すりの設置、障害者用のトイレの設置を行っております。車椅子の離合にも余裕が取れるような廊下の幅も考慮しております。	